

# 縮小社会への道 オンライン茶話会 第6回

## シリーズ：科学技術の応用は便利だけど？

石油を基幹エネルギーとして発展してきた資本主義経済は、科学技術の発展も伴い、画期的な生産力の向上を実現しました。今は、大量生産・大量消費・大量廃棄の時代に突入しており、過剰生産設備／過剰生産がお荷物となっています。「縮小社会への道」の基本は、貴重な化石燃料の消費を、減少していくことにあります。経済発展の恩恵を受けながら、便利な生活にどっぷりと浸かった生き方が、未来永劫に続くとも思えません。原発事故による放射能公害やプラスチックの廃棄物公害など、地球上に生きる全ての生物にその存亡の危機が迫っています。今回は、デジタルテクノロジーの問題について、どのような問題があるか、皆さんと共に考えてみましょう。

## 「デジタルテクノロジーの問題」について③

### あふれる情報と人工知能が人類に与える影響

### —社会・経済・人間自体への影響—

日時：11月12日（木）15:00～16:30

zoom: <https://us02web.zoom.us/j/84995858973> ID: 849 9585 8973

連続講座第2テーマ「デジタルテクノロジーの問題」について①～③に分けて学習・茶話会を実施しております。今回はその③回目（最終回）です。①②の内容は下記参照願います。

人は、快適さ、便利さを求める動物です。デジタルテクノロジーはこれらの欲求を満たす有力な手段であり、また経済成長のための最後のテクノロジーとして社会に深く、広く浸透しつつあって、これからさらにデジタル化が進められようとしています。

しかし、人は、得た快適さ、便利さにすぐに慣れ、そして飽きて、さらなる快適さ、便利さ、刺激を求めようとします。デジタルテクノロジーについても同じで、もっと早く、もっと便利に、もっと楽しく快適にと考えます。あっという間に情報記録量、情報処理速度、正確さは人の能力を追い越してしまいました。

人間は何万年もかかって、現在の脳と体を作り上げてきましたが、残念ながら、デジタルテクノロジーの急速な変化には対応できません。デジタルテクノロジーが、人間の脳や体に与える影響も徐々に明らかになっています。現状で分かっているデジタルテクノロジーの負の影響をお伝えし、これからどうすればいいのかを考える参考にさせていただきたいと思います。

【話題提供】尾崎雄三さん：縮小社会研究会理事 大学では高分子化学を専攻。1970年から25年弱、ゴム・プラスチック製品を製造する会社で製品開発と開発した製品の製造現場で生産技術に従事

「デジタルテクノロジーの問題」下記の①②は終了しました。

【連続講座 第2回】コンピューターの心臓部品である半導体—資源とエネルギー消費（終了）

【連続講座 第3回】情報通信技術（ICT）の光と影 — 情報通信技術（ICT）の副作用（終了）

連絡先：高橋精巧 E-mail: [bugad205@hi-net.zaq.ne.jp](mailto:bugad205@hi-net.zaq.ne.jp) TEL: 090-5886-8364

松久寛 E-mail: [h.matsuhisa@shukusho.org](mailto:h.matsuhisa@shukusho.org)

会員でない方の参加歓迎：非会員で参加される場合は事前に松久まで氏名、所属をお知らせ願います。

一般社団法人 縮小社会研究会 e-mail: [jimukyoku@shukusho.org](mailto:jimukyoku@shukusho.org) HP: <http://shukusho.org/>